

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400046		
法人名	ウエルエージング株式会社		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	栃木県佐野市吉水町991-1		
自己評価作成日	平成24年8月20日	評価結果市町村受理日	平成24年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、自治会に加入しており、避難訓練や納涼祭を開催の際は、回覧板を廻して、地域の方に参加していただいています。また、地域での行事等にも、積極的に参加しています。屋内に閉じこもることなく、散歩やドライブをしたり、買い物に出かけたり、美味しいものを食べに出かけたりして、気分転換を図れるよう支援している。同法人の施設との交流も行っています。「第二のわが家」、あたたかくつろげる場所を心掛け、入居者の看取りについても、取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「個人個人を尊重し、オーダーメイドの介護」を基本理念に掲げ、利用者がその人らしく地域の中で居心地良く暮らせるような支援に努めている。地域の一員として自治会に加入しており、地域の行事に参加したり、ホーム主催の納涼祭や防災避難訓練に地域住民に参加してもらうなど地域との交流を積極的に図っている。また、近隣住民とは、野菜の差し入れがあったり、散歩の際に見守ってもらうなど良好な関係が保たれている。散歩や買い物は毎日行い、普段行けない観光施設や外食などにも定期的に出かけ、室内に閉じこもることのないよう外出の支援に努めている。常勤看護師が配置されており、日常の健康管理や通院時の付き添いを支援し、日頃から主治医との連携を図っている。さらには、利用者の看取りについても関係者の協力を得ながら積極的に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人個人を尊重し、オーダーメイドの介護」を基本理念とし、毎日の朝礼で唱和し、管理者と職員が理念の共有と実践に努めている。	利用者の人格を尊重し、本人本位の支援を基本とした理念を掲げ、毎朝の申し送り時に唱和し、職員全員に周知を図り、管理者と職員が理念を共有し利用者1人ひとりの思いに沿った実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、近隣の神社のお礼を頂いている。地元のお店で買い物をしたり、地域の納涼祭や敬老会には参加している。	地域の一員として自治会に加入し、地域の諸行事に積極的に参加している。事業所主催の納涼祭や避難訓練に近隣住民の参加があったり、野菜等の差し入れがあるなど良好な関係のもとに地域との交流が図られている。	近隣住民との日常的な交流は良好で、今後は内部を見てもらう機会や、幼稚園児・小学生との交流なども考えているようなので、実現に向けての取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム主催の納涼祭や避難訓練を回覧板で廻し、地域の方々に参加して頂き、その際介護についての相談などを受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの方に参加して頂き、テーマを決めて具体的な意見を頂き、サービス向上に活かしている。	会議は利用者代表、家族代表、自治会代表、民生委員、地域包括支援センター職員をメンバーとして2ヶ月に1回開催しており、利用者の状況や支援内容等の報告や意見交換を行っている。提案された意見等はサービス向上に活かしている。年1回消防署からの参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の介護保険課に出向いた際は、ホームの現状等を伝えたり、情報を伺うように心がけている。	市介護保険課には事業所の状況を伝えたり、市から情報提供を受けるなど日頃から協力関係を築いている。	市担当者とは機会あるごとに話ができていたことだが、より積極的にこちらから働きかけるなど、市との日常的な協力関係のさらなる推進を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除のマニュアルや資料を参考にし、日頃から確認しながらケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアのマニュアルがあり、ミーティングなどで理解を深め、支援に取り組んでいる。また、言葉使いも抑圧的や命令的にならないよう配慮している。日中の施錠はしておらず利用者が外出したい様子が見られれば職員はさりげない見守りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを参考にし、毎朝の朝礼の際には、入居者一人ひとりの状態を把握し、虐待の防止の意識の徹底を図る。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の入居者様が利用されたり、これから利用したいとのご家族様を支援したり、職員も勉強会にて学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には、利用者や家族の不安に思うことをお聞きし、納得のいくまで説明をするように心がけている。また、利用中の料金改定は、文書にて契約内容を説明し理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置したり、ご家族の面会時に意見や要望を直接伺うようにしている。それらの意見は、運営推進会議やミーティングにて協議している。	運営推進会議で意見を聞くほか、意見箱を設置したり家族との面会時に意見や要望を聞いている。これらの意見や要望は運営推進会議や職員ミーティング等で検討し運営に反映するよう努めている。	利用者や家族からの意見等は聞く機会を設け運営に反映させているが、広報誌を作成して配布するなど、家族にホームの様子を良く知ってもらい、さらなる意見等を運営に反映させられるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎朝の申し送りや毎月のミーティングの際、意見や提案を出してもらうように努めている。出された意見や提案は、日報にて代表者に報告している。	職員の意見等はミーティングや伝達ノートなどで聞くほか、日常の利用者との関わりの中での職員の気づきや、アイデアを提案しやすい環境作りを心がけている。これらの意見等は利用者支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、本社、5施設長による合同会議を毎月実施しており、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、職員の能力や状況に合わせて研修を受けてもらい、研修後は報告書を提出し、ミーティング時に発表してもらう。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネジャー連絡会や在宅介護の会の研修会や懇親会に参加したり、同業者の事例報告会や試食会に参加し、ネットワークづくりを心がけている。また、サービスの質の向上をめざす。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で、要望や情報を意見交換し、不安なく入居出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面接を行い、家族が不安に思っていることや、困っていることをお聞きし、家族の意向が反映されるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人が望むサービスをいくつか提供し、選択できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様に料理の味付けを教わったり、洗濯物を一緒に干したり、たたんだりしている。朝の掃除は、入居者様と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族が話し合える場を設け、管理者、ケアマネが双方の意見を聞きながら、共に納得しあえるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店や、行きつけの美容院には、送迎を行うなどして、積極的に支援している。	入居時に馴染みの人や場を確認し、さらに日常の支援の中でコミュニケーションを図り把握に努めている。友人の面会や行きつけの店に行ったり、お祭り等の地域行事に参加するなど関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互いの居室を訪室し、コミュニケーションを図られたり、お互いを気遣う様子が見受けられる。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が亡くなられた場合は、葬儀に参列したり、新盆にはご自宅へ社長と共に参る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活歴を考慮しながら、日々の生活の中で、本人の訴えを傾聴し、本人の意向に沿った支援ができるように努める。	入居時に生活歴、趣味、希望等を確認し、さらに日常の支援の中で言動や表情などから、思いや意向の把握に努めている。帰宅や外出等の要望には良く話を聞き、本人の意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、なじみの家具や布団などを持参して頂き、起床時間や食事時間は、これまでの生活と変わらない暮らしを支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りで、入居者の昼間と夜間の細かい状態の変化を把握するように、努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝夕の申し送りやミーティングで、入居者様について気付いたことや意見などを取り入れたり、家族の面会時に意見を聴き、変化があればその都度、介護計画を作成している。	本人や家族の意向を確認し、職員や主治医の意見をもとに介護計画を作成している。設定期間は原則6ヶ月としているが、本人、家族の要望や変化が生じた場合、これらにに応じた見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	だれが見ても分かりやすいようにSOAPによる記録を取り入れて、本人の訴えとそれに対する支援の方法など統一ケアができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者が入院された場合、ご家族が遠方や忙しく行かれない場合は、職員全員でサポートしている。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週ヤクルトに来てもらったり、地域ボランティアのオカリナやフラダンスに来てもらったりして、楽しいひと時を提案している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を聞き、今までのかかりつけ医となじみの関係を維持している。また、家族の意向や入居者の状態に応じて、総合病院、専門医への変更をしている。	入居の際に協力医療機関に変更する利用者もいるが、本人や家族の希望によりかかりつけ医の受診を支援している。受診時は管理者か看護師が同行し日常の様子を伝え、主治医との連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	不安な事は看護師に相談し、看護師が判断し、主治医に連絡を取り、適切な受診が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員が交代で面会に行き、看護師との情報交換をしたり、入退院時は、サマリーを交換するなどして、スムーズに入退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望される入居者には同意を取り、看取りマニュアルを基に、主治医との連携を図り、対応方針を共有するよう支援している。	入居時に本人や家族と話し合い、重度化や終末期の意思の確認や事業所が対応しうる支援の説明をしている。看取りのマニュアルが作成されており、日中はもとより夜間における適切かつ迅速な対応を心がけ、主治医や家族、職員間での連携を図りながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に備えて、マニュアルを掲示している。また、普通救命講習を定期的を受講し、応急手当を身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、避難訓練、夜間想定避難訓練を、定期的実施している。また、災害発生に備えて食糧や水などの備蓄をしている。	災害対策マニュアルを基に年2回避難訓練を実施し、消防署の指導により消化訓練も行っている。また、このほかにも独自に夜間想定通報訓練を定期的実施しており、機械の操作や全職員の携帯電話に瞬時に伝わる操作等も訓練している。近隣住民の参加、協力も得ており、食糧や水等の備蓄も準備している。	

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前を呼ぶ時は「さん」付けを徹底し、排泄の声かけ等も他の人に気付かれないようにするなど、羞恥心やプライバシーに配慮している。	利用者に対しては常に尊厳を持って接しており、「さん」付けの徹底や排泄時の声かけには配慮を心がけている。また、馴れ合いからくる言葉づかいにも注意を払い、誇りやプライバシーを損ねないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをしようとする時、本人の解かる言葉で話しかけ、表情なども注意深く観察したり、充実感を持てるように肯定的対応により、自信を持って自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動を促す前に、まず一言声かけし、無理強いをすることなく、本人のペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院を利用したり、自分で気に入った洋服や化粧品を買いに行く支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は入居者と一緒に買い物に行ったり、ホームの畑で採れた野菜や、ご近所より頂いたりして、旬のものを取り入れた家庭的な食事を心掛けている。入居者の能力や意欲に応じて、準備や片付けをしている。	献立は法人の栄養士の指導助言の基、職員が作成し、旬の食材を取り入れながら家庭的な食事を心がけている。利用者の中には食材の買出しや味見などを職員と共に行う方もいる。職員は会話をしながら楽しい食事を心がけている。また、外食や誕生会などの行事食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方や、水分制限の入居者がいらっしゃるので、職員全員が把握し、毎食事の摂取量を記録している。また、食器の工夫をし、本人の満足感を得るような支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけしてひとり一人に合った歯磨きやうがいを実施している。		

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者ひとり一人の排泄のチェックを記入し、排泄のパターンを把握している。また、昼間は出来る限りオムツの使用を減らすように、支援している。	日頃から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながら排泄チェック表をもとに個別の支援をしている。日中はリハビリパンツや布パンツを使用し定時の誘導を心がけ、夜間は見守りを中心に排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	昼食時にヤクルトを提供したり、バナナ、さつまいも、かんてんなどをおやつに取り入れている。また、毎朝ラジオ体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望によって、毎日入る方もいれば、週に2回と決めて入る方もいます。個々の希望に沿って、自由に入浴が出来るように支援している。	毎日の入浴が可能であり、利用者個々の希望に沿った入浴が出来るよう支援している。色々な入浴剤を使用したり、季節により「菖蒲湯」や「ゆず湯」などにするなど、入浴を楽しめるよう配慮している。浴室の中央に浴槽があり、利用者は入りやすく職員は介助しやすくなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにある和室やソファで、休息ができるようにし、各居室には、家で使用していた寝具を、持って来て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや誤薬を防ぐために、職員が責任を持って内服確認し、チェック表に記入している。また、投薬管理ファイルを作成し、内服薬の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜や植物を育てたり、裁縫をされたり、俳句や俳画を描かれたり、カラオケをされたりと、思い思いに過ごされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や食材の買い物は、普通の生活の一部として行っている。施設に入所されている奥様の所へ、面会に出かけたり、自宅まで出かけている。全員で出かける事は、月2回程度の外出支援をしている。	本人の体調や天候を考慮し、毎日近くの神社などへの散歩や買い物に出かけている。利用者によっては自宅まで行ったり、他施設に入所している家族の面会に行くこともある。月2回程度の外出支援としてフラワーパークや花センターなど普段行けない場所にも全員で出かけている。	

グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる入居者様は、外出や受診時に支払をされている。その他の方は、ご家族より小口現金をお預かりし、買い物ツアーなどで、自分で買う楽しみを作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎを行ったり、送られてきた手紙を渡したりと、プライバシーに配慮しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月その月に合うような貼り絵などを貼ったり、季節の花を飾ったり、入居者様が描いた俳句などを展示している。	共用空間は良く整理されており、明るく清潔で落ち着いた温かい雰囲気となっている。季節に応じた貼り絵や花が飾られ、和室やソファで寛げるよう配慮されており、家庭的で居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のリビングには、ソファや畳があり、思い思いに過ごされている。また、玄関にはベンチがおいてあり、外気浴をされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた食器や、馴染みのある家具やテレビを持って来て頂いている。写真や人形を飾り、居心地良く過ごせるように支援している。	居室にはエアコン、洗面台、防災カーテンが備え付けられている。在宅時と違和感が無いように、室内は使い慣れた物や馴染みの物が活かされた環境となっている。寝具や家具類、テレビや写真、小物類などがそれぞれに配置され、居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ひとり一人に合った福祉用具を利用している。廊下やトイレ、お風呂場には、手すりが設置され、安全に配慮している。		